



猛暑が続いていますが皆さまいかがお過ごしでしょうか。
娘がこども病院にお世話になって18年経ちます。3つの病魔と闘い、ようやく精神的に、肉体的に、また経済的にも落ち着いてきた今年、家族で少し遠出の旅に出かけました。大学生になった娘と母親が海で元気にはしゃぐ姿を見て感慨ひとしお、はじける笑顔はこれまで頑張ってきた家族へ神様がくれた贈り物だと感じます。感謝です。

<第158回 ほほえみの会>

小児がん化学療法の認定看護師である加藤さんをはじめ6人が参加しました。

▽ 1歳7ヶ月男の子、脳腫瘍。熱っぽく機嫌の悪い日が続き、首が痛いとのことで近くの病院へ。総合病院を紹介されてCTを撮って診てもらったところ、すぐにこども病院へ回されて入院した。CTを撮った日も非常に元気でいたので、まさかこんな大病だとは思わなかった。

これまで、外科で7～8回の手術を行い、退院も近いと期待していた所、血液科に移って化学療法をするということになった。退院できない落胆と化学療法への不安が大きい。加えて母親は10月に第2子の出産を控えており、面会などどうしたらいいのか途方にくれる。

加藤ナースからはいま、化学療法は吐き気止めをはじめ非常にいい薬ができています。心配は要らないし、子供には抗がん剤の効果が大きい、だから沢山の薬も使うといったお話しがありました。



病気に対しては火山にたとえ、噴火をやめて休火山になってくれればいい。完全に治すことよりも病気があっても悪さをしないで休んでいてくれればいい。そしてその間に、問題をひとつひとつ解決していく。そうした考え方の方が親として気持ちが楽になるのではないかな。

また、子どもは非常に敏感であり親を良く見ている。陰で泣いても子どもの前では笑顔でいて欲しい。

さらに、出産を控えている点については、出産時には面会には来られないので、それに備え、子どもの病状にあわせていくつかのプランを作る必要があるだろう。子供が退院をしているケースや入院中のケースなど、誰にどう手助けをしてもらおうか。あまり一人で抱え込まないように、両親や兄弟など甘えられる所には甘えることも必要。母親が倒れたら大変なので、今のうちから休むことを考えて実践していかなければいけない。人間は一人一人強くはない、でも一人ではない。といったお話しがありました。

▽ 加藤ナースご自身の看護師を目指すきっかけとなった感動的な体験談もありました。ご両親の不注意から事故に遭い、未だにその治療を続けていることや、子どもたちがベッドで医療者に覗き込まれる怖さ、さらにはストレッチャーから落ちそうになる思いなど、体験したものでないと分からない気持ちも知っている。大変な思いをしているからこそ、人の悲しみが理解できる。だからこそ、子どもたちには少しでもいい環境で治療を受けて欲しいし、そうした看護をしたい。とのことでした。

次回 は 9月 14日(日) 11時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一 TEL054-247-9560

E-mail アドレス k_likeda@yahoo.co.jp

ホームページ <http://www.geocities.jp/hohoeminokai/>